

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティング等を通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティング等を通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	事業所独自の理念「その人らしく生活していただくお手伝いをする」は、職員で話し合っで決めた。起床時間や就寝時間・お茶の熱さ等個々の利用者の生活スタイルに合わせて支援している。ミーティングや毎日の申し送り時に話して理念に沿った支援を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉祭りに参加したり、図書館などの地域資源を活用している。また学生や障害者施設からの職場体験などの受け入れもおこなっている。	地域の福祉祭りに参加したり、図書館などの地域資源を活用している。また学生や障害者施設からの職場体験などの受け入れもおこなっている。	花火大会は、事業所の庭とデイケアセンターの屋上を地域の人に開放し一緒に楽しんでいる。高校生の演奏会や合唱・ギター演奏等のボランティア訪問がある。事業所近くの畑の野菜を頂いたり、散歩時に子供たちと挨拶する等地域との交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市でおこなっている認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトの取り組みに協力し、管理者が地域住民や中学生向けに認知症講座などをおこなっている。	市でおこなっている認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトの取り組みに協力し、管理者が地域住民や中学生向けに認知症講座などをおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険課、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。また、毎回事例などを挙げて検討会を開き、外部からの意見を聞くようにしている。	市の介護保険課、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。また、毎回事例などを挙げて検討会を開き、外部からの意見を聞くようにしている。	委員から河川が近いので災害の避難訓練をした方がよいとアドバイスがあり今年度実施した。また、介護施設利用に抵抗を示す理解力に欠ける人がいるとの事で認知症の方との関わり方を伝えた。業務多忙で今年度は会議を2か月に1度の開催が出来なかった。	業務多忙で大変ですが、年度初めに運営推進会議の年間予定表を作成し、各委員に配布しておくことと委員が出席しやすいと思われる。来年度は、工夫して2か月に1度の運営推進会議の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について、市からの相談をきっかけに入居していただくケースも多い。関係良好である。	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について、市からの相談をきっかけに入居していただくケースも多い。関係良好である。	市からの紹介で入居する利用者が多いので、入居後の状況報告等は頻繁に行っている。市の依頼で介護相談員を受け入れている。年2回の事業所管理者の会議や2か月毎のケアマネジャー研修会等を通じて市の職員との交流の機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のために玄関の施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している。身体拘束もできるだけしないように、ケアしている。スピーチロックも同様。	夜間は防犯のために玄関の施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している。身体拘束もできるだけしないように、ケアしている。スピーチロックも同様。	職員採用時は、利用者の理解と話し方のコツについて指導している。事業所の敷地は広く、周りの道路は日中車が少ないので利用者は自由に散歩している。見守りが必要な利用者は、付き添って外出している。スピーチロックになる強い言葉がけはしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。入居者以外に関しても疑わしい場合には、地域包括支援センターなどに相談するようにしている。	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。入居者以外に関しても疑わしい場合には、地域包括支援センターなどに相談するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者もいるため、スムーズに利用できるようにお手伝いしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者もいるため、スムーズに利用できるようにお手伝いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。	口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム武田の里	外部評価	
自己	外部	自己評価(実践状況)		外部評価	
項目		ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とは日々の面談にて意見を求めているほか、直接言いづらいことに関しては、無記名で投書できるようにしている。また、併設事業所の事務所でもお話をうかがっている。	利用者・家族とは日々の面談にて意見を求めているほか、直接言いづらいことに関しては、無記名で投書できるようにしている。また、併設事業所の事務所でもお話をうかがっている。	面会時の他にお花見やクリスマス会・花火大会等の行事の時に家族から話を聞く機会がある。利用者からは、日常的に「色鉛筆の購入・美容師の依頼・相撲を部屋で見たい」等の話があり都度対応している。無記名投書については特に意見がなかった。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどにおいて意見や提案を出してもらっている。簡単な事柄については、日々の業務の中で直接聞きながらその場で対応している。スタッフの意見は必ず伝えている。	ミーティングなどにおいて意見や提案を出してもらっている。簡単な事柄については、日々の業務の中で直接聞きながらその場で対応している。スタッフの意見は必ず伝えている。	管理者と職員は日常的に話す機会が多い。勤務体制や勤務時間等についても話し合っている。掃除機等の備品の購入や修理の依頼も出している。管理者は、職員の意見を法人の代表に伝えている。お花見やクリスマス会等の行事は職員が自由に計画している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで気軽に行けるように配慮している。	有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで気軽に行けるように配慮している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。認知症実践者研修受講も勤めている。外部での研修に参加しづらい職員のために、内部研修などの機会も設けている。	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。認知症実践者研修受講も勤めている。外部での研修に参加しづらい職員のために、内部研修などの機会も設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の活動や県のグループホーム協会、またケアマネ同士の集まりにも参加している。さまざまな視点が持てるように、同業者との交流は多く持つようになっている。	市の活動や県のグループホーム協会、またケアマネ同士の集まりにも参加している。さまざまな視点が持てるように、同業者との交流は多く持つようになっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の困りごとや不安な点、要望などについて必ず確認している。入居してからも在宅時と同じようにその人らしい暮らしが継続できるように、支援している。	入居前にご本人の困りごとや不安な点、要望などについて必ず確認している。入居してからも在宅時と同じようにその人らしい暮らしが継続できるように、支援している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に関しても上記対応をおこなっている。ご本人、ご家族との意見に違いがある場合にも、お互いに納得ができる形をとれるように支援している。	ご家族に関しても上記対応をおこなっている。ご本人、ご家族との意見に違いがある場合にも、お互いに納得ができる形をとれるように支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって必要な支援については必ず確認をおこなっており、グループホーム以外のサービスが必要な方には、外部のサービスも活用している。	その人にとって必要な支援については必ず確認をおこなっており、グループホーム以外のサービスが必要な方には、外部のサービスも活用している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	元気な方には掃除や食事関連のことなど、家事の手伝いなどをしていただき、役割を持っていただいている。動作が難しい方でも何かその人らしいことが見つけられるよう、配慮している。	元気な方には掃除や食事関連のことなど、家事の手伝いなどをしていただき、役割を持っていただいている。動作が難しい方でも何かその人らしいことが見つけられるよう、配慮している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などにはできるだけご家族にも同行していただいたり、無理のない範囲で外食や、家に帰る機会なども作っていただき、ご本人との関係が途切れないように支援している。	受診などにはできるだけご家族にも同行していただいたり、無理のない範囲で外食や、家に帰る機会なども作っていただき、ご本人との関係が途切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていたデサービスに遊びに行く機会を作ったり、なじみの美容院へ行けるようにするなど、その人ごとに対応している。	入居前に通っていたデサービスに遊びに行く機会を作ったり、なじみの美容院へ行けるようにするなど、その人ごとに対応している。	馴染みの人や場所は、入居時に家族や本人から聞いて職員で共有している。テラスで猫に餌を与える・習字を書く・新聞を読む・好きな流行歌を歌う等利用者の馴染みだった事をさりげなく支援している。自分の携帯電話で家族や友人と話している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と過ごせるように座席を配置したり、一緒に散歩に出かけられるようにしている。	仲の良い方と過ごせるように座席を配置したり、一緒に散歩に出かけられるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも時間があれば面会に行ったり、お見舞いなどに行っている。必要があればいつでも相談してくださいと、ご家族にも伝えている。	サービス終了後でも時間があれば面会に行ったり、お見舞いなどに行っている。必要があればいつでも相談してくださいと、ご家族にも伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら、意向の把握に努めている。意志の確認が困難な方は、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、その人らしい生活のあり方は常に模索している。	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら、意向の把握に努めている。意志の確認が困難な方は、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、その人らしい生活のあり方は常に模索している。	夜勤や遅出勤等時間に余裕のある時は意識的に思いを聞いている。買い物に行きたい場所やリハビリして良くなりたい等の思いが出る。思いは日によって変わる事もあるが、その時の思いに寄り添っている。介護計画立案時には必ず意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできるだけご自宅を訪問し、入居してからもそれまでの生活習慣などが大きく変わることのないように支援している。施設の決まりを強制しないようにしている。	入居前にできるだけご自宅を訪問し、入居してからもそれまでの生活習慣などが大きく変わることのないように支援している。施設の決まりを強制しないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態は日々変わっていくため、その日、その時に合わせた柔軟な対応を心がけている。	利用者の状態は日々変わっていくため、その日、その時に合わせた柔軟な対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて医師や理学療法士からの助言もいただきながら、本人にとって有効な介護計画を作るようにしている。介護計画以外にも、最適なケアについては日々検討している。スタッフも率先して提案している。	必要に応じて医師や理学療法士からの助言もいただきながら、本人にとって有効な介護計画を作るようにしている。介護計画以外にも、最適なケアについては日々検討している。スタッフも率先して提案している。	入居前に得た情報から暫定プランを作成している。利用者の困っている情報は多いが、出来る情報は少ないので1か月間支援して改めて計画を見直している。その後は、3か月毎にモニタリングし変化がなければ6か月毎に見直して常に状態に合った計画にしている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録は出勤時に必ず確認することとしている。またそれ以外にも特別なことについては、別途連絡事項として閲覧できるようにしている。	日々の個別の記録は出勤時に必ず確認することとしている。またそれ以外にも特別なことについては、別途連絡事項として閲覧できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム武田の里	外部評価	
自己	外部	自己評価(実状状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
項目		ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師による訪問診療や、併設診療所のリハビリなども含めて、サービスがグループホーム内だけで終わるのではなく、柔軟な支援ができるように心がけている。	医師による訪問診療や、併設診療所のリハビリなども含めて、サービスがグループホーム内だけで終わるのではなく、柔軟な支援ができるように心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自立支援事業を活用していただいたり、読書が好きな方には地域の図書館を利用してもらうなどしながら、豊かな暮らしができるように支援している。	地域の自立支援事業を活用していただいたり、読書が好きな方には地域の図書館を利用してもらうなどしながら、豊かな暮らしができるように支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所はあるが、主治医の変更を強制するのではなく、これまでのかかりつけ医にも通っていたり、入居中の様子などをケアマネより医師に随時伝えている。とくに重度認知症の場合には専門医と連携している。	併設診療所はあるが、主治医の変更を強制するのではなく、これまでのかかりつけ医にも通っていたり、入居中の様子などをケアマネより医師に随時伝えている。とくに重度認知症の場合には専門医と連携している。	併設の診療所は、利用者が散歩を兼ねて歩いて行っているが困難な時は医師の往診がある。他の受診時は、最近の情報を封書で付き添いの家族に渡している。職員に看護師がいるので緊急時や医療的な面については安心出来る。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を持った職員もいるため、専門的に体調管理できるように努めている。緊急時には併設診療所の医師や看護師にも対応していただいている。	看護資格を持った職員もいるため、専門的に体調管理できるように努めている。緊急時には併設診療所の医師や看護師にも対応していただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は何度か訪ねさせていただき、病院の相談員や看護師から、正確な情報をいただくようにしている。病院関係者とは研修などで一緒にすることも多く、関係は良好である。	入院中は何度か訪ねさせていただき、病院の相談員や看護師から、正確な情報をいただくようにしている。病院関係者とは研修などで一緒にすることも多く、関係は良好である。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りへの対応の指針について入居時に全員に説明しているほか、実際にその時が来た場合には再度、医師も交えて終末期に向けたケアの方針を確認し合うようにしている。現在も数名が看取り予定である。	重度化、看取りへの対応の指針について入居時に全員に説明しているほか、実際にその時が来た場合には再度、医師も交えて終末期に向けたケアの方針を確認し合うようにしている。現在も数名が看取り予定である。	開所15年経過し利用者は重度化しているため看取りの経験は多い。看取り期については、十分な話し合いをしていても最後の段階で家族の気持ちが揺れる事がある。その時は、家族の意向を最優先している。看取り期でも他の利用者との関わりが持てる配慮をしてお別れの機会を作っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などを通じて応急法について学んでいる。判断が難しい際には併設診療所の医師、看護師からも助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるように努めている。	研修などを通じて応急法について学んでいる。判断が難しい際には併設診療所の医師、看護師からも助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるように努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防災訓練をおこなっている。近隣住民にもいざという時のお願いはしている。	定期的防災訓練をおこなっている。近隣住民にもいざという時のお願いはしている。	火災・水害・地震の夜間想定訓練や消火器の使い方・連絡網を使つての訓練を年2回実施している。特に河川が近いので入居者からも昔の水害体験を聞き、水害のマニュアル作成の参考にした。家族や近隣の協力を得られる様に駐車場が第1避難場所と知らせてある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけない声かけを行うように心がけている。居室にうかがう際にもノックをしたり、声をかけてから行っている。また出来るだけ苗字でお名前を呼んでいる。	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけない声かけを行うように心がけている。居室にうかがう際にもノックをしたり、声をかけてから行っている。また出来るだけ苗字でお名前を呼んでいる。	利用者はそれぞれ理解力に違いがあるのでその方に合った接し方で、利用者の持っている能力が継続出来る様に支援している。居室は、必要な利用者以外は表札は無い。個人情報の入った書類は、利用者の目の届かない場所に置いている。

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム武田の里	外部評価		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方であっても、本人の気持ちになって考えるようにしている。	一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方であっても、本人の気持ちになって考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員、生活習慣が違うのは当たり前のことなので、自由に生活を送れるように支援している。画一的なレクなどの強制もしていないため、一人ひとりがそれぞれのペースで生活をしている。	全員、生活習慣が違うのは当たり前のことなので、自由に生活を送れるように支援している。画一的なレクなどの強制もしていないため、一人ひとりがそれぞれのペースで生活をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服をご自身で選んでいただいたり、欲しい物があればご家族にも協力をお願いしながら、その人らしい姿で過ごせるように支援している。	着たい服をご自身で選んでいただいたり、欲しい物があればご家族にも協力をお願いしながら、その人らしい姿で過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ねて用意させていただいたり、出来る方には配膳や片づけ、食器洗いなどを手伝っていただいている。ご家族の協力も得ながら、好きな物を楽しく食べられるように心がけている。	食べたい物を尋ねて用意させていただいたり、出来る方には配膳や片づけ、食器洗いなどを手伝っていただいている。ご家族の協力も得ながら、好きな物を楽しく食べられるように心がけている。	各ユニット内で食事を作るが、カレー等は合同で作る場合もある。また、昼食はデイケアセンターと同じ場合もある等メニューには変化がある。ヨーグルトや牛乳の宅配を受けている利用者もいる。明るい食堂で話しながらほとんどの利用者が自力で食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日に食べた物、摂取した水分量を確認し、医師とも相談しながら栄養不足や脱水が起きないように注意している。普通の食事が食べられない方には、きざみやミキサー食を用意している。	その日に食べた物、摂取した水分量を確認し、医師とも相談しながら栄養不足や脱水が起きないように注意している。普通の食事が食べられない方には、きざみやミキサー食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	菌磨きや入れ歯の洗浄を促している。自分で出来ない方については、介助させていただいている。	菌磨きや入れ歯の洗浄を促している。自分で出来ない方については、介助させていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がない方には時間で誘導をおこなっているほか、一時的に身体低下などでおむつを使用していた方であっても、回復したら外している。夜間間に合わない方には、お部屋にポータブルを設置している。	尿意がない方には時間で誘導をおこなっているほか、一時的に身体低下などでおむつを使用していた方であっても、回復したら外している。夜間間に合わない方には、お部屋にポータブルを設置している。	常時オムツの方が1名・夜間のみオムツ使用者が2名で他の利用者は自分でトイレに行っている。時間で誘導している利用者は1名いるが排泄チェック表は目につかない場所に置いている。リハビリパンツ・尿取りパット・ポータブルトイレ等必要に応じて使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼るのではなく、牛乳、ヨーグルトや、食物繊維の多い食品をすすめるなど、さまざまにアプローチしている。	下剤だけに頼るのではなく、牛乳、ヨーグルトや、食物繊維の多い食品をすすめるなど、さまざまにアプローチしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	急変する可能性や他の方の見守りもあるため、職員が一人の時間帯は避けていただいているが、それ以外はできるだけ希望に添えるように心がけている。	急変する可能性や他の方の見守りもあるため、職員が一人の時間帯は避けていただいているが、それ以外はできるだけ希望に添えるように心がけている。	入浴温度については、利用者の好みの温度にしている。浴槽にリフト浴もあり身体的に重度になっても対応出来る。入浴を拒む利用者は、デイケアセンターの普通浴槽に誘う等の工夫をしている。個人の石鹸・シャンプー等を使っている利用者もいる。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間などは決めていないため、入居前の習慣に近い状態で過ごせるように、自由にしていただいている。	起床、就寝時間などは決めていないため、入居前の習慣に近い状態で過ごせるように、自由にしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり手渡し、あるいは介助をして飲み忘れがないようにしている。薬の内容については必ず確認し、症状の変化への対応や副作用も含めて、迅速に医師に相談できるような体制を作っている。	一人ひとり手渡し、あるいは介助をして飲み忘れがないようにしている。薬の内容については必ず確認し、症状の変化への対応や副作用も含めて、迅速に医師に相談できるような体制を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員に同じレクを強制するのではなく、一人ひとりが違った楽しみを持っているほうが当たり前と考え、入居前にしていたことを継続できるように支援している。	全員に同じレクを強制するのではなく、一人ひとりが違った楽しみを持っているほうが当たり前と考え、入居前にしていたことを継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	散歩やドライブ、外でお茶を飲む機会などを作っている。また希望によってはご家族の協力も得ながら、本人の行きたい場所へ行くように支援している。元気な方ではタクシーで自由に出かける方もいた。	散歩やドライブ、外でお茶を飲む機会などを作っている。また希望によってはご家族の協力も得ながら、本人の行きたい場所へ行くように支援している。元気な方ではタクシーで自由に出かける方もいた。	桜や梅などのお花見に行ったり、回転ずし等に外出している。毎日テラスから外に出て体操したり、畑で野菜を作ったり、近くのデイケアセンターに遊びに行ったり、リハビリに通っている等、利用者は日常的に外に出る機会を持っている。	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の可能性も考え、普段は現金は事務所で預からせていただいているが、買い物したいときにはそこからお渡しして好きな物が買えるように対応している。自動販売機などには一緒に買いに行くこともある。	紛失の可能性も考え、普段は現金は事務所で預からせていただいているが、買い物したいときにはそこからお渡しして好きな物が買えるように対応している。自動販売機などには一緒に買いに行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかたい方には使っていない。携帯電話を使う方もいる。字が書ける方には年賀状や手紙などを書けるように、お手伝いもさせていただいている。	電話がかかたい方には使っていない。携帯電話を使う方もいる。字が書ける方には年賀状や手紙などを書けるように、お手伝いもさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるように心がけている。飾り付けなどを一緒に手伝っていただくこともある。	季節の花などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるように心がけている。飾り付けなどを一緒に手伝っていただくこともある。	玄関は、きれいに整頓してあり花も活けてある。牛乳の宅配箱も置かれてちょっとした安心感がある。共有リビングは、広いガラス窓から明るい日差しが差し込み料理の匂いもして居心地が良い。リビングからは、テラスに出られ季節を感じさせる庭に続いている。天気の良い日は自由に外気浴が出来る	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何かを無理に強制することはないため、独りになることも、仲の良い方と過ごすことも本人の自由にしていただいている。他者に迷惑にならない範囲であれば、自由に過ごすのは当然と考えている。	何かを無理に強制することはないため、独りになることも、仲の良い方と過ごすことも本人の自由にしていただいている。他者に迷惑にならない範囲であれば、自由に過ごすのは当然と考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	とくに持ち込む家具類の制限をしていないため、家で使っていた家具やテレビ、好きな本などを持ってきていただいている。遠慮して持ち込まない方もいるが、自由に持ち込んでいただきたいとお話している。	とくに持ち込む家具類の制限をしていないため、家で使っていた家具やテレビ、好きな本などを持ってきていただいている。遠慮して持ち込まない方もいるが、自由に持ち込んでいただきたいとお話している。	事業所で用意したベッド・エアコン・広いクローゼットの他は、利用者が自由に家具や調度品を持ち込んでいる。年代を感じさせるタンスや引き出し戸棚・家族の写真や若かりし頃の映画俳優のプロマイド・自分の作品等思い思いの居室づくりが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。また、手すりなどを活用していただきながら、できるだけご自身で動けるようにと支援している。	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。また、手すりなどを活用していただきながら、できるだけご自身で動けるようにと支援している。		